

評価委員会総合評価

研究課題名： (若手研究)火山性流体採取法における技術的検討

評価委員

委員長：高野清治

委員：齊藤和雄、竹内義明、水野孝則、小泉耕、尾瀬智昭、高野功、高薮出、
鈴木修、前田憲二、山里平、倉賀野連、岡部来

評価日：平成 29 年 2 月 17 日 (書面開催)

1. 総合評価

- (1) 採用の可否 可 否
(2) 修正の必要の有無 修正の必要あり 修正の必要なし

2. 総合所見

申請者には既に十分な研究実績を持っており、すぐに外部資金に応募できるようなバックグラウンドを有している。

研究の必要性、緊急性等については特に問題はないものの、従来、数多くの調査が行われているなかで統一した手法が確立されていない点を考えると、「最適」な採取法を導き出すことには難しさが予想されるが、水蒸気噴火の発生予測を目指す上で有力な方法と考えられる火山ガスの分析において、信頼度の高い火山ガスデータを取得するために必要不可欠な研究である。

研究材料の元となる試料採取という研究の根幹にかかわる調査であり、今後の火山ガス研究・観測に与える影響は大きい。

本研究の目的、目標、進め方は適切であり、研究の成果も十分期待できると判断できる。今後は以下の点に留意しつつ、提案された研究計画を進めるべきである。

- ・噴気孔の特性（の違い）を定性的、定量的にきちんと記録し、できるだけ無駄のないサンプリングを行うよう期待する。研究期間、予算も限られているので、今後の研究の糸口になる知見が少しでも得られれば良いのではないかと。
- ・研究代表者は火山ガス観測の経験を積んでいるが、研究実施にあたり、くれぐれも安全確保には十分注意して研究を実施してほしい。
- ・計画の修正自体は不要と思うが、研究を進めるにあたり、単一の最適性が必ずしも設定できるわけではないことを考慮し複眼的に研究を進めてほしい。
- ・火山ガスの採取場所の選定により、本研究の成否が左右されると思われる。3 地点を選定する計画であるが、採取場所の特異性を緩和するために、可能であればもう少し観測点を増やした方が一般的な結論を得やすいのではないかとと思われる。
- ・必要性は理解できるが、本来なら経常研究である「B7 火山ガス観測による火山活動監視・予測に関する研究」で計画すべき内容と思われる。今回はこれで良い

が、来年度以降も引き続き同様の研究を進めるなら、若手ではなく B7 に組み込んで計画を立てるべきである。

- 研究によって得られる成果は、気象庁の火山ガス観測業務や他機関も含めた火山ガス観測にも貢献するものである。マニュアル化を目指してほしい。